弘前大学（医病）基幹・環境整備（外構整備）工事

意匠図				構造図	
Ａ－００	表紙	Ａ－３３	撤去　詳細図-1	Ｓ－０１	構造特記仕様書(１)
Ａ－０１	特記仕様書－１	Ａ－３４	撤去　詳細図-2	Ｓ－０２	構造特記仕様書(２)
Ａ－０２	特記仕様書－２	Ａ－３５	撤去　詳細図-3	Ｓ－０３	構造特記仕様書(３)
Ａ－０３	特記仕様書－３	Ａ－３６	撤去　詳細図-4	Ｓ－０４	一般事項・鉄骨一般事項
Ａ－０４	特記仕様書－４	Ａ－３７	高低差図	Ｓ－０５	鉄骨工作標準図（１）
Ａ－０５	建築概要・凡例	Ａ－３８	1階サインキープラン	Ｓ－０６	鉄骨工作標準図（２）
Ａ－０６	工事区分表	Ａ－３９	地階サインキープラン	Ｓ－０７	鉄骨コンクリート構造配筋標準図（１）
Ａ－０７	内外部一般事項・外部仕上表・内部仕上表	Ａ－４０	サイン詳細図	Ｓ－０８	鉄骨コンクリート構造配筋標準図（２）
Ａ－０８	建物求積図			Ｓ－０９	積載荷重表
Ａ－０９	配置図			Ｓ－１０	基礎伏図・基礎断面表
Ａ－１０	1階　平面図			Ｓ－１１	R階・PH階床伏図
Ａ－１１	地階　平面図			Ｓ－１２	軸組図（１）
Ａ－１２	立面図			Ｓ－１３	軸組図（２）
Ａ－１３	断面図			Ｓ－１４	雑断面表（１）
Ａ－１４	矩形図-1			Ｓ－１５	雑断面表（２）
Ａ－１５	矩形図-２			Ｓ－１６	雑断面表（３）
Ａ－１６	階段室－１　詳細図			Ｓ－１７	アンボンドスラブ工事特記仕様書
Ａ－１７	階段室－２　詳細図			Ｓ－１８	Ｒデッキ設計・施工標準図
Ａ－１８	出入口庇　詳細図			Ｓ－１９	地盤改良特記仕様書
Ａ－１９	展開図－１			Ｓ－２０	地盤改良伏図・ボーリング柱状図
Ａ－２０	展開図－２				
Ａ－２１	地階・１階　天井伏図				
Ａ－２２	建具キープラン				
Ａ－２３	建具表				
Ａ－２４	雑　詳細図－１				
Ａ－２５	雑　詳細図－２				
Ａ－２６	雑　詳細図－３				
Ａ－２７	雑　詳細図－４				
Ａ－２８	雑　詳細図－５				
Ａ－２９	法チェック図				
Ａ－３０	平均地盤算定図				
Ａ－３１	撤去図-１				
Ａ－３２	撤去図-２				

平成22年5月

弘前大学施設環境部

建築工事特記仕様書

工事概要

工事名称	弘前大学（医病）基幹・環境整備（外構整備）工事
工事場所	青森県弘前市本町53
完成期限	平成 23年 3月 31日(金曜日)
工事の種類・規模等	

棟名称	駐車場棟	詰所	
工種	新築	新築	
構造・階数	RC造一部S造 地下1階	S造平屋	
建築面積	3,910.61 ㎡	3.23 ㎡	3,913.84 ㎡
延べ面積	3,828.74 ㎡	3.23 ㎡	3,831.97 ㎡
延べ面積計			3,831.97 ㎡

模様替内容	

工作物等

構内舗装	新設	一式	
構内舗装	とりこわし	一式	
擁壁R	とりこわし	一式	
囲障S	とりこわし	一式	
既存建物	とりこわし	一式	
既存建物	部分撤去	一式	

一般特記事項

総則

1．この工事の請負者は，文部科学省発注工事請負等契約規則(文部科学省訓令第二十二号)別記第１号の工事請負契約基準，現場説明書，特記仕様書 4枚(構造特記仕様書 3枚 図面 54枚)，公共建築工事標準仕様書(統一基準)(建築工事編)(平成22年版)，工事記録写真撮影要領に基づき工事を施工する。

2．特記仕様書の適用方法
（1）・印で始まる事項及び表中の・印の事項は，○印の付した事項のみ適用する。
（2）═══ で抹消した章及び項目の当該特記事項は，すべて適用しない。
（3）特記された材料，製造所，製品名，施工業者等の取扱いは，特記されたもの又は同等以上のものとする。ただし，同等以上のものとする場合は，監督職員の承諾を受ける。
（5）左欄の（ ），（（ ）） 内の数値は，下記の各該当番号を示す。
（ ） －公共建築工事標準仕様書（統一基準）（建築工事編）（平成２２年版）
（（ ）） －文部科学省建築工事標準仕様書（特記基準）（平成２２年版）

建築基準法に基づき定められた区分等

建築基準法に基づき定められた区分等
風速 Vo＝ 34 m／s
地表面粗度区分 ・Ⅰ ・Ⅱ ○Ⅲ ・Ⅳ
積雪区分 建告示第１４５５号 別表 (12)

1章 一般共通事項

(1.1.6) 設計図書の取扱い

下記の書類を提出のこと

区分	種類	図面の大きさ	組
1) ○ 発注図面	仮製本（Ａ２判）	Ａ１判	3
2) ○ 〃	縮小原図	Ａ３判	1
3) ・ 〃	縮小図仮製本（Ａ３判）	Ａ２判	
4) ○ 〃	〃 （Ａ４判）	Ａ３判	8

注 ※ 製本：工事名称等文字入

(1.3.3) (1.3.4) 電気保安技術者

この工事現場に下記いずれかの電気保安技術者を選任する。

工事用電力設備の保安責任者

項目名	電気保安技術者
1 第３種電気主任技術者以上の資格を有する者	○
2 １級電気工事工事施工管理技士以上の資格を有する者	○
3 高等学校又はこれらと同等以上の教育施設において、電気事業法の規定に基づく主任技術者の資格等に関する省令第７条第１項各号の科目を修めて卒業した者	○
4 旧電気工事技術者検定規定規則による高圧電気工事技術者の検定に合格した者	○
5 公益事業局長又は通商産業局長の指定を受けた高圧試験に合格した者	○
6 第１種電気工事士の資格を有する者	○
8 ２級電気工事施工管理技士以上の資格を有する者	○
8 第２種電気工事士（旧電気工事士）以上の資格を有する者	○
9 短期大学若しくは高等専門学校又はこれらと同等以上の教育施設の電気工学以外の工学に関する学科において一般電気工学（実験を含む）に関する科目を修めて卒業した者	○

(1.1.5) 施工条件

この工事現場では，次の施工条件による。

(1.1.8) 発生材の処理等

引渡しを要するもの

特別管理産業廃棄物

現場において再利用を図るもの

再生資源化を図るもの
コンクリート・木・アスファルト等

関係法令に従い適切に処分するもの
上記以外のもの

※この工事は，建築工事に係る資材の再資源化等に関する法律（平成12年法律第104号）に基づき，分別解体後及び

(1.3.11) 施工中の環境保全等

低騒音型・低振動型建設機械の使用

本工事においては「低騒音型・低振動型建設機械の指定に関わる規定」(平成９年７月３１日建設省告示第1536号 最終改定 平成１３年４月９日 国土交通省告示第487号)に基づき国土交通大臣が型式指定を行った低騒音型・低振動型建設機械を使用するものとする。ただしこれにより難い場合は，監督職員と協議の上，必要書類を提出するものとする。
低騒音型建設機械を使用する場合，現場代理人は施工現場において使用する建設機械の写真撮影を行い，監督職員に提出するものとする。

排出ガス対策型建設機械

本工事において以下に示す建設機械を使用する場合は，「特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律」(平成17年法律第51号)に基づく技術基準に適合する機械，または，「排出ガス対策型建設機械指定要領（平成3年10月8日付け建設省経機発第249号 最終改正平成14年4月1日付け国総施第225号），「排出ガス対策型建設機械の普及促進に関する規程」(平成18年3月17日付け国土交通省告示第348号)もしくは「第３次排出ガス対策型建設機械指定要領」(平成18年3月17日付け国総施第215号)に基づき指定された排出ガス対策型建設機械を使用するものとする。排出ガス対策型建設機械を使用できない場合は，平成７年度建設技術評価制度公募課題「建設機械の排出ガス浄化装置の開発」，またはこれと同等の開発目標で実施された民間開発建設技術の技術審査・証明事業，もしくは建設技術審査証明事業により評価された排出ガス浄化装置を装着することで，排出ガス対策型機械と同等と見なす。ただし，これにより難い場合は，監督職員と協議するものとする。
排出ガス対策型建設機械，又は排出ガス浄化装置を装着した建設機械を使用する場合，現場代理人は，施工現場において使用する建設機械の写真撮影を行い，監督職員に提出するものとする。

種類	備考
バックホウ	ディーゼルエンジン(エンジン出力7.5kW以上、260kW以下)を搭載したものに限る。
トラクタショベル(車輪式)	
発動発電機(可搬式、溶接兼用機を含む)	
空気圧縮機(可搬式)	
油圧ユニット(基礎工事用機械で独立したもの)	
ローラ類(ロードローラ、タイヤローラ、振動ローラ)	
ホイールクレーン	

ディーゼル車排出ガス規制に適合した車両

① 請負者は本工事現場で使用し、又は使用される関係車両(以下本工事関係車両という)が、当該工事場所のディーゼル車排出ガス規制条例(以下「排出ガス規制条例」という。)の適用を受ける場合は、これに適合した車両を使用しなければならない。
② 請負者は、本工事の施工に先立ち、本工事関係車両の「ディーゼル車排出ガス規制に適合する車両の使用」について、排出ガス規制条例の遵守を施工計画書に記載しなければならない。
③ 請負者は、本工事関係車両にディーゼル車を使用する場合には、車検証のコピーを保管し、本工事関係車両を把握しなければならない。
④ 請負者は、取締りにより本工事関係車両に違法行為があった場合には、直ちに監督職員に報告しなければならない。
⑤ 請負者は、資機材の搬出入等において、資材納入業者に排出ガス規制条例を遵守させるものとする。

(1.4.2) 材料の品質等

再利用を図るものは，次による。

(1.4.4) 材料の検査等

材料名	備考

(1.5.2) 技能士

工種	技能検定の職種
鉄筋工事	○ 鉄筋施工
コンクリート工事	○ 左官 ○ 型枠施工
鉄骨工事	○ とび
ブロック・ＡＬＣパネル工事	・ ブロック建築 ・ ＡＬＣパネル施工・ カーテンウォール施工
ＰＣカーテンウォール工事	○ 押出成形セメント板 ・ ＰｏａＰｃ施工
防水工事	○ 防水施工
石工事	・ 石材施工
タイル工事	○ タイル張り
木工事	・ 建築大工
屋根、とい工事	○ 建築板金 ・ スレート施工
金属工事	○ 内装仕上げ施工（鋼製下地）
左官工事	・ 左官
建具工事	○ サッシ施工 ○ ガラス施工
塗装工事	○ 塗装
内装工事	○ 内装仕上げ施工（床、天井仕上げ等） ・ 表装
植栽工事	・ 造園

(1.5.4) 一工程の施工の確認及び報告

施工の確認及び報告を行う工程	備考
配筋完了時	
内装下地完了時	
外壁等完了時	外部足場を取り外す前

(1.5.5) 施工の検査等

次について検査を行う。

(1.5.7) 施工の立会い等

標準仕様書に定めがあるもの以外で、次に示す工事段階及び事項については、監督職員の立会いを受ける。

(1.5.9) 化学物質の濃度測定

○ ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン等の揮発性有機化合物の室内濃度の測定
工事の施工完了後、引き渡しをするまでの間に、下表の測定室等の揮発性有機化合物の室内濃度を測定し、指針値以下であることを確認し、報告する。

測定室等

棟名称	階	室名	採取本数
駐車場棟	各階	ホール、通路	各室１本

※上記の室については、それぞれ１検体につき２回採取を行い測定する。

測定物質、測定方法

種類	指針値	
ホルムアルデヒド	１００μg/m3 (0．０８ppm) 以下	○ジニトロフェニルヒドラジン誘導体固相吸着/溶媒抽出法で採取し、高速液体クロマトグラフ法によって行う。 ・その他（ ）
トルエン	２６０μg/m3 (0．０７ppm) 以下	○次のうちのいずれかの測定方法とする。 固相吸着/溶媒抽出法で採取し、ガスクロマトグラフー質量分析法によって行う。 固相吸着/加熱脱着法で採取し、ガスクロマトグラフー質量分析法によって行う。 容器採取法で採取し、ガスクロマトグラフー質量分析法によって行う。
キシレン	８７０μg/m3 (0．２０ppm) 以下	
エチルベンゼン	３８００μg/m3 (0．８８ppm) 以下	・その他（ ）
スチレン	２２０μg/m3 (0．０５ppm) 以下	
	μg/m3 (ppm) 以下	

※両単位の換算は，25℃の場合による。

試料採取方法
試料採取は室内及び外気の各１箇所を２回づつとし、対象室内を３０分換気後に対象室内を５時間以上密閉し、その後続く３０分間採取の密度（μg／m３）で表す。採取の時刻は揮発性有機化合物濃度の日変動で最大となることが予想される午後２時～３時頃に設定するのが望ましい。室外についても室内と同様の条件で平行して採取する。
試料採取は室の中央付近の少なくとも壁から１m以上離した高さ1．2～1．5mの位置を試料採取位置として設定する。
外気の試料採取は外壁及び空調吸排気口から２m～５m離した、室内の測定高さと同等の高さの所を試料採取位置として設定する。

測定結果が上回った場合の措置
測定結果が指針値を上回った場合は、監督職員と協議する。

(1.6.2) 技術検査

本工事期間中に中間技術検査を、＿＿＿＿＿＿に＿＿回行う。
ただし、工事内容により、これによりがたい場合は、監督職員と協議するものとする。

(1.7.1) 完成時の提出図書

下記の書類を提出のこと

区分	種類	図面の大きさ	組
1) ○ 完成図面	原図 (青焼製本（Ａ４判）)	Ａ１判	1
2) ○ 施工図面	仮製本（Ａ２、Ａ３判）	Ａ１、Ａ２判	1
3) ・ 機器完成図			
4) ・ 諸手続書類			
5) ○ 各種試験検査成績書			1
6) ○ 有害物質等に関する資料等			2

注 ※ 製本：工事名称等文字入
※ 完成図面：発注図と相違のある部分は赤で訂正のこと。
※ 3)～6)：種類は監督職員の指定したものとする。
※ 完成図面は、CADデータについても提出すること。

その他

(1.7.2) 完成図

完成図の種類及び記入内容は次による。

種類	記入内容

完成図の様式等は次による。
作成方法 ＿＿＿＿＿＿
原図サイズ ＿＿＿＿＿＿
工事写真帳は（ ・ 紙媒体 ・ 電子媒体 ）で ＿＿部提出する。
完成写真はキャビネ版とし黒表紙、工事名称等は金文字入りとする。
なお、完成写真には撮影方向等を明示した配置図、平面図を添付する。
本工事は、次の書類について電子納品の対象とする。
＿＿＿＿＿＿
貸与する設計図のＣＡＤデータ著作者名：NTTファシリティーズ ファイル形式：ＪＷＷ．ＤＸＦ
貸与条件：貸与するＣＡＤデータを本工事における施工図又は完成図の作成のために以外に使用しないこと。
提出方法：＿＿＿＿＿＿

(1.7.3) 保全に関する資料

保全に関する資料 提出部数 1 部

2章 仮設工事

3章 土工事

(2.2.3) 埋戻し及び盛土

種別 ○A種 ・B種 ・C種 ・D種
C種の場合
建設発生土受入量 ＿＿＿＿＿＿ m3
発生場所 ＿＿＿＿＿＿
開通工事名称 ＿＿＿＿＿＿

(2.2.5) 建設発生土の処理

・構内指定場所に散き均し
・構内指定場所にたい積
○構外に搬出し、関係法令に従い適切に処理する。 指定場所：

~~4章 地業工事~~ 構造図による

(4.2.1) 杭の載荷試験

・鉛直載荷試験 ・水平載荷試験

(4.2.4) 地盤の載荷試験

・行う ・行わない

(4.3.1) 適用範囲

施工法
特定埋込杭工法
・プレボーリング根固め工法
・中堀り拡大根固め工法
・＿＿＿＿＿＿
・打込み工法
・打込み工法（プレボーリング併用）
・セメントミルク工法

(4.3.2) 材料

種類
・ＰＨＣ杭
・ＳＣ杭
・ＰＲＣ杭
先端部形状 ・閉鎖型 ・開そく平たん型

(4.3.3) 打込み工法

杭の設計支持力 ＿＿＿＿＿＿

(4.3.6) 継手

杭継手工法 ・溶接継手 ・ 無溶接継手

(4.4.2) 材料

鋼管ぐい	
Ｈ形鋼ぐい	

(4.5.3) 材料その他

コンクリートの種別 ・A種 ・B種
設計基準強度 ＿＿＿＿ N／mm2
掘削工法
・アースドリル工法 （安定液 ・使用する ・使用しない）
・リバース工法
・オールケーシング工法（孔内の水張 ・行う ・行わない）
＿＿＿＿＿＿

(4.5.4) アースドリル工法、リバース工法及びオールケーシング工法

試験杭
杭の本数 ・最初の一本
杭の種類 ・本杭と同じ
杭の寸法 長さ（m）＿＿＿＿
断面寸法 ・本杭と同じ
孔壁測定 ・行う ・行わない
方法 ・超音波測定器 ・＿＿＿＿

(4.5.5) 場所打ち鋼管コンクリート杭工法及び拡底杭工法

孔壁測定 ・行う ・行わない
方法 ・超音波測定器 ・＿＿＿＿

(4.6.2) 材料

・再生クラッシャラン ・切込砂利及び切込砕石

NTTファシリティーズ

特記

弘前大学施設環境部	部長	課長	課長補佐	係長	担当

工事名 弘前大学（医病）基幹・環境整備（外構整備）工事

株式会社ＮＴＴファシリティーズ 東北支店 一級建築士事務所
宮城県知事登録 第07Ｘ10202号

代表となる設計者	その他の設計者	
1級建築士 登録第167234号 高橋 一信	1級建築士 登録第199507号 山吉 弘明	

件名 弘前大学（医病）基幹・環境整備（外構整備）実施設計業務

図面名 特記仕様書-1

縮尺 ／

図面番号 A-01

平成 22 年度

区分

(19.7.2)
材　　料

せっこうボード、その他ボード及び合板張り

名称	種　　類		規格、区分等	厚さ（mm）
せっこうボード製品	○せっこうボード　（GB－R）			○ 9．5（準不燃）○12．5（不燃）
				・ 9．5（準不燃）・12．5（不燃）
				・12．5（不燃）・15．0（不燃）
	○硬質せっこうボード　（GB－H）			○ 9．5（不燃）
	・シージングせっこうボード（GS-S）			・12．5（不燃）・12．5（準不燃）
	・せっこうラスボード（GB－L）			・ 9．5
	・強化せっこうボード（GB－F）			・15．0（不燃）・21．0（不燃）
	○不燃積層せっこうボード（GB－NC）		模様なし	○ 9．5（不燃）
			トラバーチン	・ 9．5（不燃）
	・化粧せっこうボード（GB－D）	普通	・トラバーチン	・ 9．5（準不燃）
			・木目模様	・ 9．5（準不燃）・12．5（不燃）
		特殊		
吸音材料	・ロックウール吸音ボード（RW－B）		1号	・25　・50（ガラスクロス包）
	・グラスウール吸音ボード（GW－B）		2号　32ｋ	・25（ガラスクロス包）
	・ロックウール化粧吸音板（DR）	内部用	普通	・ 9．0（不燃）
			立体模様	・12．0（不燃）
		軒天用	普通	・ 9．0（不燃）
			立体模様	・12．0（不燃）
セメント繊維強化	・0．8けい酸カルシウム板（0.8FK）			・ 6．0
	・化粧けい酸カルシウム板（無石綿）（FK-C）			・ 6．0
合板	特殊合板 ・天然木化粧合板		・なら　・しおじ	化粧単板　・0．3未満　・板　・4．2
	特殊合板 ・特殊加工化粧合板		・メラミン化粧合板	・3．0
			・ポリエステル化粧合板	・4．0
	難燃板合板			
セメント木質系板	・木毛セメント板		・硬質木毛セメント板	・15　・20
			・普通木毛セメント板	・25　・30
	・木片セメント板		・硬質木片セメント板	・12　・15　・18　・21　・25
			・普通木片セメント板	・30
ハードボード（軟質繊維板）（硬質繊維板）	素地ハードボード ・スタンダードボード		・未研磨板	・ 2．5　・ 3．5
			・研磨板	・ 5　・ 7
	・テーパードボード		・未研磨板	・ 2．5
				・ 3．5
			・研磨板	・ 5
				・ 7
	・内装用化粧ハードボード			・2．5　・3．5　・5　・7
	・外装用化粧ハードボード			・ 5　・ 7
インシュレーションボード	・A級インシュレーションボード		・素板	・ 9　　・12
			・天井仕上げ材	
			・内装仕上げ材	
			・押入収納内装材	・15　　・18
	・シージングボード			
・MDF				・3　・7　・9　・12　・15　・18　・21　・24　・30
パーティクルボード	・単板張りパーティクルボード		・無研磨板	・10　　・12
				・15　　・18
			・研磨板	・20　　・30
				・35　　・40
	・化粧パーティクルボード		・単板オーバーレイ	・10（難燃）・12（難燃）
				・15（難燃）・18（難燃）
			・プラスチックオーバーレイ	・20（難燃）・25（難燃）
				・30（難燃）・35（難燃）
			・塗　装	・40（難燃）

(19.8.2)
材　　料

壁紙張り

施　工　箇　所	製造所・製品名	防火性能の級別
全般		・1級　・2級　・
		・1級　・2級　・
		・1級　・2級　・

壁紙及び接着剤は、ホルムアルデヒド放散量の少ないものとする。

(19.9.2)
~~断熱材打込み工法~~

種　　類	種　別	厚さ（mm）	施　工　箇　所
・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材			
・押出法ポリスチレンフォーム保温材	・保温板２種ｂ	・25　・	
	・保温板３種ｂ	・25　・30　・50	屋上
	・保温板３種ｂ	・25　・30　・50	接地部分、ピット内
・硬質ウレタンフォーム保温材			

上記保温材は、特定フロンを含まないものとする。

(19.9.3)
~~断熱材現場発泡工法~~

断熱材現場発泡工法

種類	厚さ（mm）	施　工　箇　所
・A種1	・20	
・A種2	・30	
・A種3	・35	

上記保温材は、特定フロンを含まないものとする。

(3.2.2)（3.3.2）
(3.4.2)（3.5.2）
(3.6.2)
材　　料

各ビニル床シートは、下記による。

種　　類	性　能	厚さ（mm）	柄	施工箇所
長尺塩化ビニル床シート　VS(2)		2.5	マーブル	ホール

(3.7.2)
材　　料

フローリングの種別

フローリング	樹　種	厚さ（mm）	大きさ（mm）	工　法

20章　ユニット及びその他工事

(20.2.2)
材　　料

フリーアクセスフロア

施　工　箇　所				
構　成　材				
表面仕上げ材	一般床部	・タイルカーペット ・帯電防止ビニル床タイル	・タイルカーペット ・帯電防止ビニル床タイル	・タイルカーペット ・帯電防止ビニル床タイル
	ボーダー部スロープ	・一般部分の仕様に準ずる ・図示	・一般部分の仕様に準ずる ・図示	・一般部分の仕様に準ずる ・図示
形状寸法（mm）		・500×500	・500×500	・500×500
高さ（mm）		・300	・300	・300
耐荷重（N）		・3000 ・5000	・3000 ・5000	・3000 ・5000
許容水平力（G）		・0．6 ・1．0	・0．6 ・1．0	・0．6 ・1．0

(20.2.3)
~~天井開口切~~

構造形式	表面材質	仕　上　げ	不燃材料の認定
・パネル式 ・スタッド式	・鋼板	・メラミン樹脂塗料焼付け	・あり

(20.2.4)
~~床開口仕切~~

パネル圧接装置の操作方法	遮音性能	表面仕上げ
・プッシュ式 ・ハンドル回転式	・一般タイプ（36dB未満） ・遮音タイプ（36dB以上）	・焼付け塗装 ・壁紙張り

(20.2.5)
~~トイレブース~~

表面材の材質
・メラミン樹脂系化粧板
・ポリエステル樹脂系化粧板
・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
※アルミ製コーナーエッジ付

(20.2.6)
~~黒板及びホワイトボード~~

・黒板
種類　・焼付け　・＿＿＿＿＿＿
・ホワイトボード
種類　・ほうろう　・＿＿＿＿＿＿

・掲示板
・JIS S 6007（黒板）の地板に掲示板表面材を接着剤で完全接着したものとし、枠の材質はアルミニウム製とする。
表面材　＿＿＿＿

(20.2.11)
~~爆発ライニング~~

適用安全温度　・400℃　・650℃

~~システム天井~~

・施工する

一般事項
システム天井を取り付けるためのインサートは、構造体の施工時に取り付ける。後付けとする場合は、充分な支持力のあるあと施工アンカー等とする。

材料
天井下地＿＿＿型

補強用振止め金物は、野縁受け材（［－38×12×1.2）を使用し、防せい処理を行ったものとする。
インサートは鋼製とし、防せい処理を行ったのもとする。
使用するボード類は、建築基準法に基づき防火材料の指定または認定を受けたものとする。
天井改め口は、落下防止付きとする。

工法
照明、ダクト等を取り付ける場合には、ラインをはみだしたり野縁受けを切断しない。
天井のふところが屋内1.5m以上、屋外1.0m以上の場合は、縦横間隔1.8m程度に、吊りボルトと同材又は［-19×10×1.2（m）以上を用いて、吊りボルトの振れ止め補強を行う。
回り縁の取付方法
コンクリート、モルタル面・・・あと施工アンカー
せっこうボード直張りエ法面・・接着剤及びあと施工アンカー併用
軽量鉄骨壁・・・・・・・・・スタッドにビス止め
アルミ製Tバーを冬季に使用する場合は、温度の影響に考慮し、クリアランスを設ける。

上記以外は、（14.4.1）～（14.4.4）［軽量鉄骨天井下地］による。

~~コンクリートよう壁~~

・施工する　・施工しない

材料
地業の材料＿＿＿＿
コンクリートは６章１４節［無筋コンクリート］による。
硬質塩化ビニル管は、表２１．２．１［排水管用材料］のＶＰ管とする。

施工
土工事は、３章［土工事］による。
地業は、材料に応じて、（4.6.3）［砂利及び砂地業］または（4.6.4）［割り石地業］による。

無筋コンクリートよう壁の場合
伸縮目地の間隔は１０ｍ以下とし、ひび割れ誘発目地の間隔は５ｍ以下を標準とする。
水抜き穴は、（20.4.3）（c）（11）による。

(20.2.6)
階段滑り止め（ノンスリップ）

鉄筋コンクリートよう壁の場合
伸縮目地の間隔は２０ｍ以下とし、鉄筋を切って設ける。
ひび割れ誘発目地の間隔は１０ｍ以下とし、鉄筋を切らないで設ける。
水抜き穴は、（20.4.3）（c）（11）による。

材　種　　○ステンレス（ＳＵＳ３０４）　・アルミ
取り付け方法　・　接着工法　　○　埋込み工法
※ゴム付付フラットエンドタイプ

(20.2.7)
床目地棒

○ステンレスＦＢ（ＳＵＳ３０４）　５～６×１２
（床仕上げが異なる場合に設ける。但し、建具部は建具表による。）

(20.2.9)
錠

・耐湿錠　ｔ＝５　　ステンレスフレーム付き

(20.2.10)
表　示

○衝突防止表示　　ステンレス製　ＨＬ仕上げ　Φ２０程度　市販品
○誘導標識　　市販品
○室名札　　図示による

歩道部庇　　三協立山アルミ　高強度シェルター　同等品

出入口庇　　アルミハニカムパネルt104　（株）日本ピット　同等品

通路、階段室2　庇　　（株）日本ピット　JP-JWFシリーズ（寸法は図面による）　同等品

サイン　　図面による

天井見切縁

材　質	※ アルミニウム製	○ 塩ビ製	
形　式	材　種	寸　法	形　式 外　枠　　内　枠
天井	※ アルミニウム製	・450×450 ○ 600×600	一 般 ○ addition付 製 ○ 兼addition付
	・	・	・目地付　・目地付
	※ アルミニウム製	・600×600	・密閉形 ・屋内外用　・屋内用
床	・ステンレス製	・1000×1000 ・600×1200	・一般形　・密閉形（二重蓋） ・縞鋼板正形
	・鋳鉄製	・600φ	・密閉型（防水防臭用）

製造所

点検口

定礎　　定礎盤の材質○ 御影石　・ 大理石　t=40 本磨き　　掘込文字「定礎　平成23年3月31日」
定礎盤の寸法○　450mm×　600mm
設置個所　　1ヶ所

階段手摺　　樹脂製　溝隠し付
製造所　シンドウエ業　程度

止水板（止水材）　　形　状　　据置式
材　質　　水膨張性弾性ゴム
寸　法　　厚１０×幅２０mm 程度
施工箇所　　図示

21章　排水工事

(21.2.2)
側　塊　、　排　水　桝　等

マンホールふた

種　　類	形　　式	適用荷重（安全荷重kgf）	鍵の有無	施工箇所

グレーチング

種　類	形　式	用　途	適用荷重	メインバーピッチ 普通	メインバーピッチ 細目	備　考
○鋼　製	○受枠付	・溝ふた（横断用）	・Ｔ－２用	・	・	
		○溝ふた（側溝用）	・Ｔ－６用	・	・	
		・ますふた用	・Ｔ－１４用	・	・	
		・Ｕ字溝用	○Ｔ－２０用	○	・	
・ステンレス製	・受枠付	・溝ふた（横断用）	・歩行用			
		・溝ふた（側溝用）	・Ｔ－２用			
			・Ｔ－６用			
		・ますふた用	・Ｔ－１４用			
		・Ｕ字溝用	・Ｔ－２０用			

22章　舗装工事

(22.2.3)
材　　料

路床
盛土用材料
○Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種

(22.2.5)
~~試　　験~~

路床土の支持力比（ＣＢＲ）試験
・行う
路床締固めの度の試験
・行う

(22.4.2)
舗　装　の　構　成
及　び　仕　上　り

カラー舗装の種類
・表層に着色した加熱アスファルト混合物
・表層の上に着色舗装又は樹脂系混合物
・表層の上に常温塗布式舗装又はニート工法による樹脂系舗装

(22.4.4)
配　合　そ　の　他

加熱アスファルト混合物の種類

表　　層	○密粒度アスファルト混合物　・（１３）　○（１３Ｆ）
	・細粒度アスファルト混合物　・（１３）　・（１３Ｆ）
基　　層	粗粒度アスファルト混合物（２０）

(22.4.5)
工　　法　　シールコート　・行う

(22.4.6)
~~試　　験~~　　アスファルト混合物の抽出試験　・行う

(22.5.3)
~~材　　料~~　　早強セメント　・使用する

(22.5.6)
~~試　　験~~　　コンクリート版厚さ試験　・行う

(22.6.6)
~~試　　験~~　　透水性アスファルト混合物の抽出試験　・行う

(22.7.3)
~~材　　料~~　　タックコート用ゴム入りアスファルト乳剤の種類
・ＰＫＲ－Ｔ１　・ＰＫＲ－Ｔ２

(22.8.3)
~~材　　料~~　　インターロッキングブロック舗装

材質、種類	形状、寸法	表面加工

23章　植栽及び屋上緑化工事

(23.2.2)
植　栽　基　盤　一　般

芝・地被類の植栽部分	○行う　・行わない
上記以外	・行う　・行わない

土壌改良材
施工箇所＿＿＿＿＿＿＿＿

(24.4.2)
材　　料

吹付けは種
種子の種類及び配合

(23.4.3)
芝　張　り　の　工　法

工法
・目地張り　○べた張り　・筋張り

(23.5.2)
植　栽　基　盤

土壌層の厚さ　＿＿mm

(23.5.3)
植　栽　基　盤

保水・排水層
○適用
○軽量骨材

層厚さ	軽量骨材	透水性配水管
50 mm	○火山砂利 ・黒曜石パーライト ・膨張性貫岩	○合成樹脂系透水管 ・黒曜石パーライト詰め透水管

・板状成形品
埋込用土
○適用

種類	厚さ
○人口軽量土 ・改良土	50 mm

ルーフドレンカバーの材質及び形状＿＿＿＿
ルーフドレンカバーを設ける場合は、防根用シートを傷めないようにする。

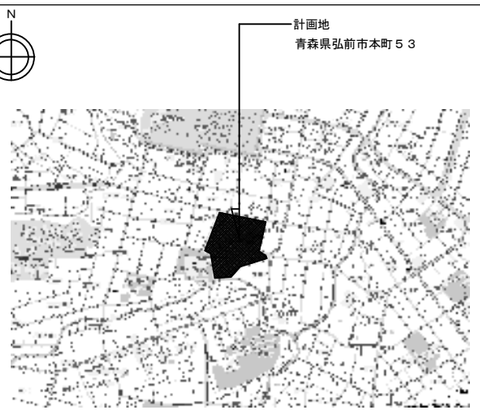
建築概要

工事名	弘前大学（医病）基幹・環境整備（外構整備）工事
地名地番	青森県弘前市本町５３　（弘前大学本町団地構内）
敷地面積	55,693.49㎡
用途地域	第一種住居地域
建ぺい率	６０％
容積率	２００％
防火地域	準防火地域
その他の地域	騒音・振動・悪臭規制地域、歴史的風土保存地区
日影規制	３時間/５時間
接道	北側：１２．０ｍ（計画道路１６．０ｍ）
	西側：１１．５ｍ
主要用途	駐車場
工事種別	新築
建築面積	３９１０．６１　㎡
延べ面積	３８２８．７４　㎡
構造	ＲＣ造・Ｓ造
規模	地下１階・棟屋１階
基礎の形式	直接基礎（地盤改良）
最高の高さ	９．０６８　ｍ
建物の高さ	９．０６８　ｍ
軒の高さ	９．０１８　ｍ
主なスパン	８．０００　ｘ　１０．５００
基準階の高さ	4,０００mm

面積表

建築面積	３９１０．６１　㎡		
床面積	容積対象床面積	駐車・駐輪場床面積	延床面積
１階	８７．１９　㎡	㎡	８７．１９　㎡
地階	３７４１．９９　㎡	３４３６．１３　㎡	３７４１．９９　㎡
合計	３８２８．７４　㎡	３４３６．１３　㎡	３８２８．７４　㎡

案内図



凡例

塗料　※本工事に使用する塗料は下記による。

共通事項：厚生労働省の室内濃度指針値にある規制13化学物質を配合していないもの。鉛を含まないもの。水系のもの。ＴＶＯＣの放散量が出来るだけ少ないものを選定すること。
※塗料は監督員の承諾を得て決定のこと。尚、承諾に当たっては監督員の求める資料を全て提出のこと。

記号	名称	記号	名称
WUP	水性反応硬化型ウレタン樹脂ペイント塗り（つや有り）	WEP	水性ｱｸﾘﾙ樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り（室内環境対応型）
ＣＬ	クリヤーラッカー塗り	ＥＰ－Ｇ	つや有合成樹脂エマルションペイント塗り
ＦＥ	フタル酸樹脂エナメル塗り	ＥＰ－Ｔ	合成樹脂エマルション模様塗料塗り
ＡＥ	アクリル樹脂エナメル塗り	ＥＰ－Ｍ	多彩模様塗料
２－ＵＥ	２液形ポリウレタンエナメル塗り	ＵＣ	ウレタン樹脂ワニス塗り
２－ＡＳＥ	アクリルシリコン樹脂エナメル塗り	ＯＳ	オイルステイン塗り
２－ＦＵＥ	常温乾燥形フッ素樹脂エナメル塗り	ＶＥ	塩化ビニル樹脂エナメル塗り
ＳＯＰ	合成樹脂調合ペイント塗り	ＮＡＤ	アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り
ＥＰ	合成樹脂エマルションペイント塗り	フッ素クリア	フッ素樹脂RC打放し保護塗装（クリア）

仕上塗材

略号	名称	略号	名称
外装薄塗材Ｅ	外装合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝ系薄付仕上塗材	複層塗材ＲＳ	合成樹脂溶液系複層仕上塗材
内装薄塗材Ｅ	内装合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝ系薄付仕上塗材	複層塗材Ｓｉ	ケイ酸質系複層仕上塗材
外装厚塗材Ｅ	外装合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝ系厚付仕上塗材	吹付用軽量塗材	吹付用軽量骨材仕上塗材
複層塗材ＣＥ	ポリマーセメント系複層仕上塗材	こて塗用軽量塗材	こて塗用軽量骨材仕上塗材
複層塗材Ｅ	合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝ系複層仕上塗材	薄付仕上塗材	内装水溶性樹脂系薄付け仕上塗材
複層塗材ＲＥ	反応硬化形合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝ系複層仕上塗材		

内装材認定番号（ボード類）

記号	材料名	壁(mm)	天井(mm)	備考	防火認定番号
ＧＢ－Ｒ	せっこうボード	12.5、9.5	12.5	壁二重張りの下地張りはt=12.5	NM-8619
ＧＢ－ＮＣ	不燃積層化粧せっこうボード		9.5	（内装制限「下共不」の場合 GB-NC t=9.5	NM-8613
ＧＢ－ＮＣ（Ｔ）	不燃積層化粧せっこうボード（ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ模様）		9.5		NM-8613
ＧＢ－Ｄ（Ｗ）	不燃積層化粧せっこうボード（木目模様）		12.5		NM-0127
ＧＢ－Ｓ	シージングせっこうボード	12.5	12.5		NM-9639
ＧＢ－Ｆ	強化石膏ボード	15.0、21.0	15		NM-8615
ＦＫ－Ｐ	吸音用孔開無石綿セメントケイ酸カルシウム板	12			
ＦＫ	無石綿セメントケイ酸カルシウム板	12	6		NM-8578
ＤＲ	ロックウール化粧吸音ボード　普通		9	二重張りの下地張りは内装制限「下共不」ＧＢ－ＮＣ t=9.5 上記以外：ＧＢ－Ｒt=9.5	NM-8599 下地材 (NM-8513)
ＤＲ（凸凹）	ロックウール化粧吸音ボード 凸凹模様		12		
ＰＦ	ポリスチレンフォーム保温材	40			
ＧＷ－Ｂ	グラスウール吸音ボード（ｶﾞﾗｽｸﾛｽ包み）	50	50		NM-8606
ＧＢ－Ｒ－Ｈ	普通硬質せっこうボード	9.5			NM-9645
ＦＧ－Ｂ	無機繊維強化せっこうボード	8	8		NM-9028
ＡＬＣ	軽量気泡コンクリート	100			H12建告1399号
ＥＣＰ	押出成形セメント板	60			FP060NE-9035

内装材認定番号（仕上類）

記号	材料名	壁(mm)	天井(mm)	備考	防火認定番号
化粧シート	塩ビ化粧シート				NM-0131
ＧＷ－Ｂ	グラスウールボード 24kg/㎥	50	50	ガラスクロス貼り	NM-8606
ﾍﾟｼｷ下地ｸﾛｽ	ガラスクロス				NM-0471
ＷＥＰ	水性ｱｸﾘﾙ樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗				NM-8585
薄付仕上塗材	内装用薄付仕上塗材Ｗ				NM-8574

内装制限

記号	名称	記号	名称
難	難燃材料	不	不燃材料
準	準不燃材料	下共不	下地共不燃材料

内装制限法規

略号	名称	略号	名称
令112-4	建築基準法施行令第112条 第4項	令129	建築基準法施行令第129条
令112-6	建築基準法施行令第112条 第6項	令129の13	建築基準法施行令第129条の13の3 第3項
令112-7	建築基準法施行令第112条 第7項		
令112-9	建築基準法施行令第112条 第9項		
令120-2	建築基準法施行令第120条 第2項		
令123	建築基準法施行令第123条		
令128の3	建築基準法施行令第128条の3の2		
令128の4	建築基準法施行令第128条の4		

排煙設備

略号	名称	略号	名称
自然	自然排煙設備	令126の2-1	建築基準法施行令第126条の2第1項
機械	機械排煙設備	令126の2-1-1	建築基準法施行令第126条の2第1項第1号
告口	平成12年建設省告示1436号四号ロ	令126の2-1-2	建築基準法施行令第126条の2第1項第2号
告ハ（一）	平成12年建設省告示1436号四号ハ（一）	令126の2-1-3	建築基準法施行令第126条の2第1項第3号
告ハ（二）	平成12年建設省告示1436号四号ハ（二）	令126の2-1-4	建築基準法施行令第126条の2第1項第4号
告ハ（三）	平成12年建設省告示1436号四号ハ（三）		
告ハ（四）	平成12年建設省告示1436号四号ハ（四）		
告ニ	平成12年建設省告示1436号四号ニ		

配管材

略号	名称	略号	名称
ＳＧＰ（白）	配管用炭素鋼鋼管（白管）	ＶＰ管	硬質塩化ビニル管
ＳＧＰ（黒）	配管用炭素鋼鋼管（黒管）	外圧管（1種）	遠心力鉄筋コンクリート管

耐火認定番号

防火区画	1時間耐火：FP060NP-0007、FP060NP-9061、FP060NP-9206、FPF060-9156、H12建告1399号ｲ
防火上主要な間仕切	1時間耐火：FP060NP-9206
床、外壁	鉄筋コンクリート　H12建告1399号ｲ
耐火被覆	1時間耐火　吹付けロックウール　梁：FP060BM-9408　柱：FP060CN-9460
防火区画シャッター	扉は特定防火設備としCAS-0255とする。
ＥＶ扉	扉は特定防火設備としCAS-0220とする。計画通知は工作物として別途提出する。

シックハウス関連

仕上材料は家具等を含めて全てＦ☆☆☆☆又は規制対象外品を使用する。

天井裏はＦ☆☆☆又は規制対象外で構成する。

下地・金属類

ＲＣ直均し	コンクリート直均し	ＦＲＰ	繊維強化プラスチック
Ｓ、ＬＧＳ	軽量鉄骨	ＣＨＰＬ	チェッカープレート
Ｗ	木製下地	ＲＣ打	コンクリート打放し （タイル下地はＣ種、打放し仕上はＢ種）
Ｓｔ	スチール	ＥＣＰ	押出成形セメント板
ＡＬ	アルミニウム	Ｍ	モルタル
ＳＵＳ	ステンレス	ＰＦ板	ポリスチレンフォーム床下地材
ＳＵＳ　ＨＬ	ステンレス　ヘアーライン		

仕上凡例

略号	名称	略号	名称
Ｔ	タイル貼り	ＶＨ	ソフト巾木　H=100
ＶＳ	ビニル床シート	ガードＨ　又はキックプレート	ガード巾木　H=300
ＶＴ	ビニル床タイル	Ｃ	カーテン
ＴＣ・Ａ	タイルカーペット	ＶＢ	ベネシャンブラインド
ＴＣ・Ｂ	タイルカーペット	ＴＢ	縦型ブラインド
ＧＷ	グラスウール	ＲＢ	ロールブラインド
塗床	防塵塗料	遮光Ｃ	遮光カーテン
塗膜防水Ａ	駐車場用塗床		
塗膜防水Ｂ	ウレタン系		
塗膜防水Ｃ	ポリマーセメント系		

内外部一般事項

床仕上基準面	床基準面（1階基準床面）は、新外来診療棟（既存）の1階の床仕上げ面とする。	天井見切り縁	特記なき限り、塩ビ製とする。金属製天井はアルミ製とする。
コンクリート増打ち	特記なき限り、コンクリート打放しの増打ち厚さは、外部 t20、内部 t10とする。	ステンレス部仕上げ	特記なき限りステンレス部の仕上げは、内部はＨＬ、外部は２Ｂ仕上げとする。
	外部打継目地及び誘発目地に伴う増打ち厚は t20とし、弾性シーリングにて目地処理を行う。	塗装・防錆処理	特記なき限り、鉄部の塗装は下記による。
床見切金物	床仕上の異なる部分には、目地棒を使用する。		内部見え掛り（一般部）：溶融亜鉛めっきリン酸処理、内部見え隠れ：錆止め塗装
	目地棒はステンレス6×15（足付）とする。		外部見え掛り：溶融亜鉛めっき、外部見え隠れ：溶融亜鉛めっき
壁下地（地階）	特記なき限り、軽量鉄骨間仕切（LGS W=100）りとし、原則として梁又はスラブ下までとする。	シーリング目地	異なる部材の取り合い部については、15mm×20mm以上のシールを施す。
内部間仕切り壁	内部間仕切り壁はスラブより立ち上げることを基本とする。	シックハウス対策	内部仕上げにおいては全て、環境ホルモン及びホルムアルデヒド等の影響につ
柱・梁型（地階）の仕上げ	特記なき限り、岩綿材吹付け t25（1時間耐火）		いて予想される人体に対する害を防止し、地球環境に配慮したものを用いること。
防火区画貫通部	防火区画（床・壁）部分を貫通する鋼管等の相互空隙及びそれらと防火区画との空隙には岩綿材を充填する。		内装仕上げ材及び接着剤は全てＦ☆☆☆☆を使用することとする。（天井裏等も）
ＥＶピット	床：コンクリート直均しの上塗膜防水Ｂ		
	壁：コンクリート打放し補修の上塗膜防水Ｂ		
天井点検口	特記なき限り、アルミ製点検口600角とし、仕上げは天井仕上げと同じにする。		
雨樋	外部：ＳＧＰ 100A 2-FUE		
	内部：ＳＧＰ150A は防露巻き （地階 駐車場内 横引き）		
駐車場	白線引き Ｗ＝１５０		

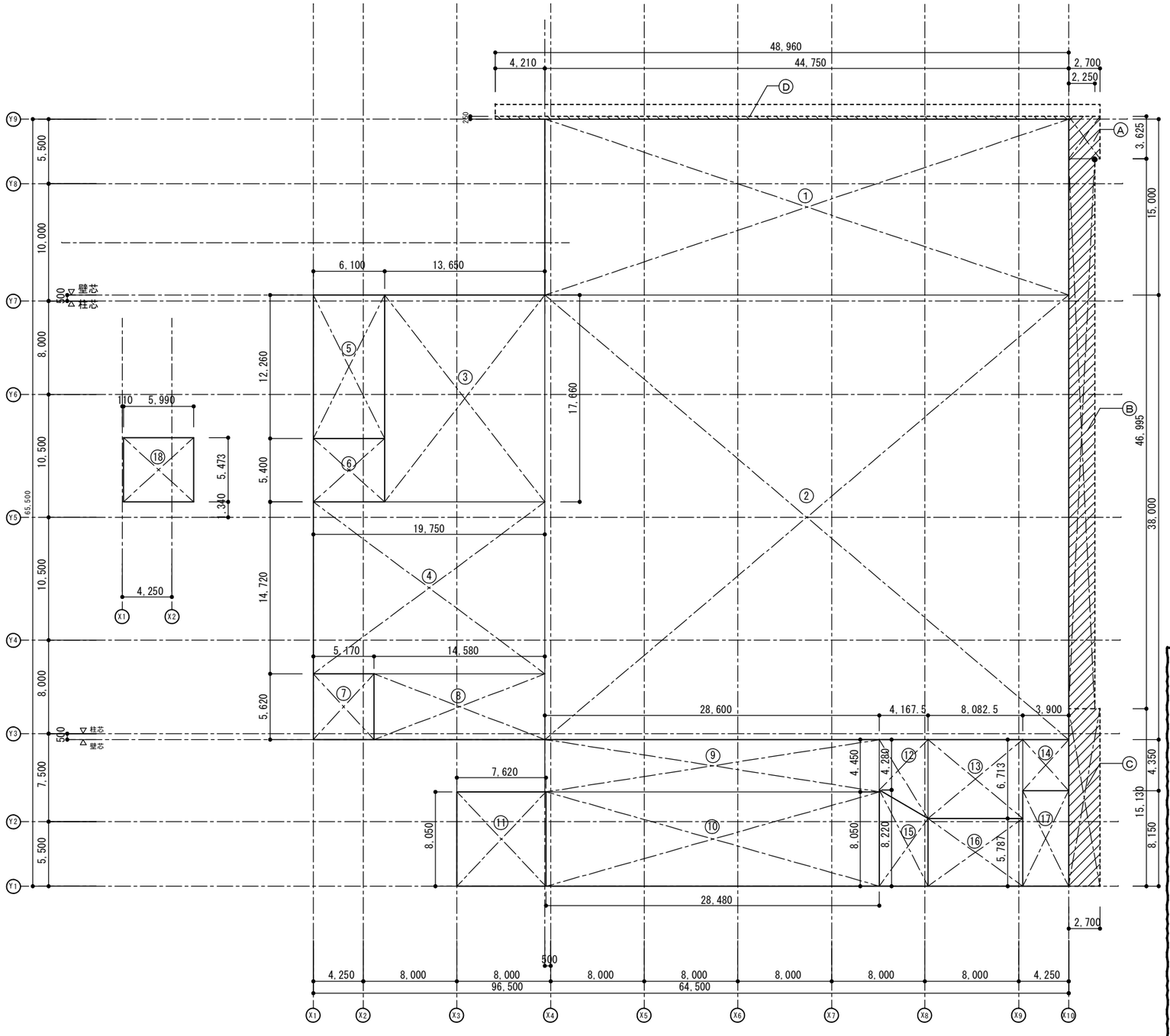
外部仕上表

部位	部分	仕上	部位	部分	仕上
屋上	床	表層より 押さえコンクリート t80（ワイヤーメッシュ9φ@100DC）、絶縁材 アスファルト防水層 コンクリート直均し（スラブ勾配1/100）、伸縮目地 @3200	外構	駐車場スロープ	車道用コンクリート舗装（融雪設備）
	立上り	押えコンクリート		車道・駐車場（1階部分）	押さえコンクリートの上透水性アスファルト舗装（一部融雪設備）
	排水溝	鉄筋コンクリートＬ型、水勾配1/200、ＲＤ、ＳＵＳ100A ヒータ付			
	笠木	アルミ製笠木 笠木継ぎ目部分は避雷システム接続金具を設置する		歩道	押さえコンクリートの上透水性アスファルト舗装 （一部融雪設備）
	設備基礎	塗膜防水		植栽	芝貼り（高麗芝 ベタ張り）
	配管立上り	塗膜防水、配管取出し口、アルミパネル t2.0		歩車道境界ブロックＡ	150 x 170 x 200 x 600
				地先境界ブロックＡ	120 x 120 x 600
				車止めブロック	150 x 120 x 600
				コンクリート塀	Ｗ＝180 Ｈ＝1,400
外壁	外壁一般	コンクリート打放し フッ素クリア			
	開口部建具	一般部：アルミ製二次電解着色（高耐候型陽極酸化皮膜複合皮膜）			
	ガラス	断熱複層ガラス			
	出入口前庇	アルミ製フッ素樹脂焼付塗装（鉄骨下地） 鉄骨部：溶融亜鉛メッキの上 2-FUE			
	歩道庇	アルミ製（既製品）間口＝2600 高さ＝2070 屋根：アルミ合金板材ｔ＝2			

内部仕上表

階	室名	天井高 床高	天井高 躯体高	内装制限 排煙設備	床 下地	床 詳細番号	巾木	壁 下地	壁 詳細番号	天井 下地	天井 詳細番号	廻縁 日除け	備考
地階	地下駐車場	直天井		—	防塵塗料	雑詳 27 番	ＶＨ	ＥＰ		デッキ・ＰＣ板表し		—	ＶＨは、ＬＧＳ壁部分
		±0	-10	機械	ＲＣ直均し			ＲＣ打・ＧＢ－Ｆ×2	雑詳30,31,32番 雑詳 33 番			—	
					磁器300角Ｔ	雑詳 29 番							
		±0	-50		Ｍ								
	ホール	2,700		準	ビニルタイル	雑詳 28 番	ＶＨ	ＥＰ		ＤＲ－ＧＢ－Ｒ		塩ビ	ＶＨは、ＬＧＳ壁部分
		±0	-10	告ハ（二）	ＲＣ直均し			ＲＣ打・ＧＢ－Ｆ×2	雑詳30,31,32番 雑詳 33 番	ＬＧＳ	雑詳 33 番	—	
	泡消火設備室	直天井		準	防塵塗料	雑詳 27 番	ＶＨ	ＥＰ		デッキ表し			ＶＨは、ＬＧＳ壁部分
		±0	-10	告ハ（二）	ＲＣ直均し			ＲＣ打・ＧＢ－Ｆ×2	雑詳30,31,32番 雑詳 33 番		—		
	排煙機械室	直天井		準	防塵塗料	雑詳 27 番	ＶＨ	ＥＰ		デッキ表し			ＶＨは、ＬＧＳ壁部分
		±0	-10	告ハ（二）	ＲＣ直均し			ＲＣ打・ＧＢ－Ｆ×2	雑詳30,31,32番 雑詳 33 番		—		
	換気機械室	直天井		準	防塵塗料	雑詳 27 番	ＶＨ	ＧＷ－Ｂ		ＧＷ－Ｂ			ＶＨは、ＬＧＳ壁部分
		±0	-10	告ハ（二）	ＲＣ直均し			ＲＣ打・ＧＢ－Ｆ×2	雑詳30,31,32番 雑詳 34 番	デッキ	雑詳 36 番		
	電気機械室	直天井		準	防塵塗料	雑詳 27 番	ＶＨ	ＥＰ		デッキ表し			ＶＨは、ＬＧＳ壁部分
		±0	-10	告ハ（二）	ＲＣ直均し			ＲＣ打・ＧＢ－Ｆ×2	雑詳30,31,32番 雑詳 33 番		雑詳 35 番		
1階	通路	3,000		準	ビニルタイル	雑詳 26 番	ＶＨ	ＥＰ		ＤＲ－ＧＢ－Ｒ		塩ビ	
		±0	-10	告ハ（二）	ＲＣ直均し			ＲＣ打	雑詳30,31,32番	ＬＧＳ	雑詳 33 番	—	
共通	階段室-1	3,000		不	ビニルタイル	雑詳 28 番	ＶＨ	ＥＰ		ＤＲ－ＧＢ－Ｒ		塩ビ	塩ビ手すり・段鼻：ノンスリップ金物
		±0	-10	令126の2-1-3	ＲＣ直均し			ＲＣ打	雑詳30,31,32番	ＬＧＳ	雑詳 33 番	—	
	階段室-2	3,000		不	ビニルタイル	雑詳 28 番	ＶＨ	ＥＰ		ＤＲ－ＧＢ－Ｒ		塩ビ	
		±0	-10	令126の2-1-3	ＲＣ直均し			ＲＣ打	雑詳30,31,32番	ＬＧＳ	雑詳 33 番	—	

NTTファシリティーズ	特記	弘前大学施設環境部	部長	課長	課長補佐	係長	担当	株式会社ＮＴＴファシリティーズ 東北支店 一級建築士事務所 宮城県知事登録 第07X10202号	代表となる設計者 1級建築士 登録第167224号 高橋 一信	その他の設計者 1級建築士 登録第199507号 山吉 弘明		件名 弘前大学（医病）基幹・環境整備（外構整備）実施設計業務	図面番号 A-07 平成 22 年度
		工事名 弘前大学（医病）基幹・環境整備（外構整備）工事										図面名 内外部一般事項・外部仕上表・内部仕上表	縮尺 ／ 区分



部位	求積算定数式	計（㎡）
①	44.750 × 15.00	671.250
②	44.750 × 38.00	1,700.50
③	13.650 × 17.660	241.0590
④	19.750 × 14.720	290.720
⑤	6.100 × 12.260	74.7860
⑥	6.100 × 5.400	32.940
⑦	5.170 × 5.620	29.0554
⑧	14.580 × 5.620	81.9396
⑨	28.60 × 4.450	127.270
⑩	28.480 × 8.050	229.2640
⑪	7.620 × 8.050	61.3410
⑫	(6.713+4.280) × 4.1675 × 0.5	22.9066
⑬	8.0825 × 6.713	54.2578
⑭	3.90 × 4.350	16.9650
⑮	(5.787+8.22) × 4.1675 × 0.5	29.1870
⑯	8.0825 × 5.7870	46.7734
⑰	3.90 × 8.150	31.7850
⑱	5.990 × 5.400	32.3460
⑲	3.50 × 6.840	23.940
⑳	3.790 × 8.040	30.4716
Ⓐ	2.70 × 3.625	9.7875
Ⓑ	46.995 × 2.25	105.7387
Ⓒ	2.70 × 15.13	40.8510
Ⓓ	48.960 × 0.25	12.240

面積表		計（㎡）
建築面積	Ⓐ～Ⓓ＋①～⑰	3,910.6170
地階床面積	①～⑰	3,741.9998
1階床面積	⑱＋⑲＋⑳	86.7576
延床面積	①～⑳	3,828.74
駐車場面積	①～④＋⑧～⑩＋⑫～⑭	3,436.1320

特記

弘前大学施設環境部

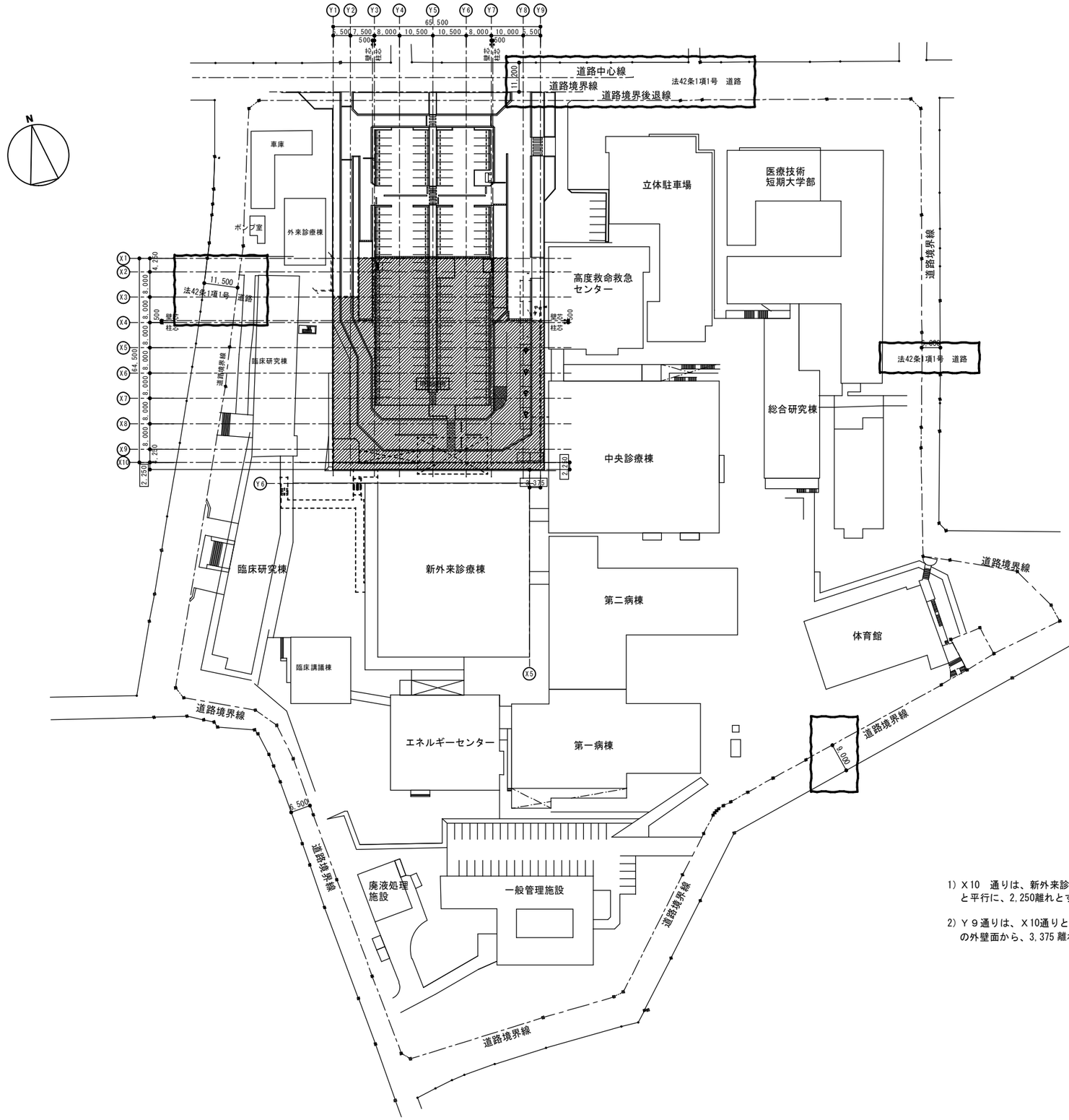
工事名 弘前大学（医病）基幹・環境整備（外構整備）工事

部長	課長	課長補佐	係長	担当

株式会社ＮＴＴファシリティーズ
東北支店 一級建築士事務所
宮城県知事登録 第07Ｘ10202号

代表となる設計者：1級建築士 登録第167234号 高橋 一信
その他の設計者：1級建築士 登録第199507号 山吉 弘明

件名 弘前大学（医病）基幹・環境整備（外構整備）実施設計業務
図面番号 A-08
平成 22 年度
図面名 建物求積図
縮尺 1／200
区分



1）X10　通りは、新外来診療棟Y6　通り（ピット外壁面）と平行に、2,250離れとする。

2）Y９通りは、X10通りと直行とし、新外来診療棟X5通りの外壁面から、3,375 離れとする。

NTTファシリティーズ	特記	弘前大学施設環境部	部長	課長	課長補佐	係長	担当	株式会社ＮＴＴファシリティーズ 東北支店　一級建築士事務所 宮城県知事登録　第０７Ｘ１０２０２号	代表となる設計者 1級建築士 登録第167234号 高橋　一信	その他の設計者 1級建築士 登録第199507号 山吉　弘明		件名	弘前大学（医病）基幹・環境整備（外構整備）実施設計業務	図面番号	A-09	平成 22 年度
		工事名	弘前大学（医病）基幹・環境整備（外構整備）工事									図面名	配置図	縮尺	1／700	区分	